

第3回第三期高知市中心市街地活性化基本計画策定検討委員会
議事概要

日時 令和4年6月6日(月) 14:00~16:00

場所 高知共済会館 3階 大ホール「桜」

出席者 【委員】

古谷純代(委員長), 安藤浩二(副委員長), 黒瀬裕之, 北村和代, 大西みちる, 中田陽子,
金津智明, 森恒一郎, 亀川代平, 笹岡和泉, 石筒寛, 梶原太一

【オブザーバー】

濱田憲司, 山下修, 福留正充(代理出席), 岡林成海, 松村和明

次第 1 開会 2 議事
3 その他 4 閉会

1 開会

2 議事

○議題

- (1) 目標及び評価指標の検討
- (2) 基本方針及び計画区域の設定

○主な質疑等

※次の文言については省略して記載します。

中心市街地活性化基本計画→中活計画

【委員】

第三期中活計画において高知警察署を計画区域に追加することのメリットは何か。

<事務局>

資料1, p7③のとおり, 現行の区域設定の考え方を踏まえ, 「主要な都市機能エリア」に警察署が該当するものとして, 追加を考えているものであり, 現時点で警察署が主体となって実施する事業予定があるというわけではない。

【委員】

コロナの影響でこれまで運営している施設の利用者が少なかったが, ウイズコロナの考え方が変わったのか, 最近は利用者が急増している。4月1日から6月5日までにバリアフリー観光の利用が22件, 車いすの貸出が11件, 一般観光の方が162件となり, 去年の年間相談件数をすでに超えた状況である。内訳としては, 商店街のお店情報の問合せが増えており, 携帯電話, 時計の修理ができる店舗や土佐料理以外の地元の美味しい店舗等, 細かいところまで聞かれる。商店街の情報を集約し, 把握しているところを知りたく, 情報があればぜひ連携を取らせていただきたい。

【委員長】

商店街情報についていかがか。

【副委員長】

申し訳ないが、そういったお店の情報はなく、情報の一元化は難しいと考える。観光のみでいうと、おもてなしという視点で、携帯等で情報が得られるような方向にしていく必要がある。

【委員長】

委員から観光に特化した意見ということで検討いただきたい。他に意見はあるか。

【委員】

基本方針や目標はお任せするが、資料1 p 6のコンセプトはしっかり話し合うべきである。案が3つ出ているが、古臭く感じどこの市町村にでもあると思われるようなものである。冒頭で委員長がおっしゃっていた「トンネルを抜け明るい兆しが」という表現が県民、市民が感じていることだと思う。そういうことやワクワク感、ドキドキ感が詰まったコンセプトにすべきである。

未来や明日、子どもたちが明るく過ごせるというワードを入れてほしい。

また、区域について、上町の坂本龍馬記念館のエリアを入れないと観光分野、高知市民のアイデンティティが入れられないと思われる。万々商店街や愛宕商店街も同様で、いきなり区域に入るのが難しいのであれば、準中活区域のようなエリアの設定や、イオンモール高知もまた協力区域のような形で拡げることにはできないだろうか。

【委員長】

区域について、委員から話があったように上町やイオンモール高知などエリアを拡げることが可能なのか。

<事務局>

平成11年度に高知市が策定した中活計画は約270haの区域で周辺商店街まで広げていた。平成24年度に内閣総理大臣の認定を受け策定した第一期の基本計画の際に、国のコンパクトシティの方針を踏まえ、142haと計画区域を変更し、事業を確実に実施できるようにした。そのため、第三期で急激に広げるという考え方は、国の施策の方向性とも異なり、明確な説明が必要になるため、エリアの追加に関しては、検討させていただきたい。

【副委員長】

エリアを広げるという意味ではないが、桜井町1丁目に中江兆民の生家がある。また、菜園場には武市半平太の生家、升形商店街には馬場隆文の生家が、高知城西側には植木枝盛の生家、北東へ行くと寺田虎彦の生家もある。エリア外に活用されていない土佐の歴史を伝えられる場所がある。エリア外に碑があるということを入念に入れておいていただければと思う。

【委員長】

現状エリアを広げることができないが、第三期で成功すれば今後広げることができるかもしれない。エリアの連携、繋がり等も考慮いただければと考える。

<事務局>

中活計画に準エリアや計画区域外で実施する事業は、原則掲載しないこととなっている。そこについては、市独自の計画で進めていくなど検討していきたい。

【委員長】

他に意見はあるか。

【委員】

エリアについて暮らすという要素が入っており、分かりやすくまとめられていると思う。一方で、はりまや橋小学校が外れている。高知駅からの電車通りのみ区域に入っておりいびつに細くなっているが、両サイドに大きな病院がある。病院施設は暮らしの中では大きな要素もあると思う。医療の視点も追加いただければと考える。

<事務局>

区域設定にあたっては、歩行者通行量など一定の事業の効果測定のできる広さ、商業地域の容積率を考慮した結果、いびつな形となっている。中心市街地活性化の全体的な方向性はコンパクトにしていくことであり、区域は絞り込んでいる。ただし、病院等は中心市街地に必要であるという話は理解できるため、もう少しエリアについて考えていきたい。

【委員長】

今日ご検討していただきたいのはp 4の基本方針、目標である。ここに関してご意見はあるか。

【委員】

目標1について、雇用創出も守備範囲という理解でよろしいか。中心市街地の就業者数はどのくらいか。

<事務局>

中心市街地の店舗の増加を考えての「働くにも『ぼっちり』」という言葉だが、結果的には雇用創出につながると思う。また、中心市街地の従業者数は平成26年の商業統計では1,678人。市全体では18,449人となり、市全体に対する中心市街地の割合が9.1%となっている。

中心市街地の割合は、商店街やひろめ市場などの商業集積地を含んだ地域である。

【委員】

今は中心市街地の居住者が増加してきているが、目標1の「暮らすにも『ぼっちり』」は、今の中心市街地の居住者数は不十分だという考え方に捉えられる。中心市街地に必ずしも住まないといけないというわけではないと思う。この目標はどういう考え方か。

<事務局>

中心市街地の現状把握でお示した市民意識調査の結果では市全体では9割が住み続けたいと回答している。中心市街地を含む中部地域でも9割が住み続けたいとなっている。居住人口を増やしていくという意味ではなく、今住んでいる方が住み続けたいと思えるように設定したところである。

【委員】

現時点で9割以上の方が住みたいと思うのであれば、目標に設定する必要はないのではないかと。それよりも働くことに適した場所として重点を置く方がよいと考える。

【委員長】

マンションにはどれくらいの年齢層がどれだけ入っているのか。

【事務局】

中心市街地の人口は5,490人が最新の情報である。年齢層は中心市街地では令和3年で15歳未満が8.8%、15～64歳までは56.3%、65歳以上が34.9%となっている。

【委員】

一時は若い人たちが市街地よりも郊外に出ていき、街に住んでいる人が少なくなった。一人で暮らしている高齢者も増えた。そのことから、市街地に人が住んでほしいということでマンションが建ち、人を呼んだ。少なくなった人口が現在増えてきていることは良いことである。「暮らすにも『ぼっちり』』というキャッチフレーズは必要だと考える。

【委員長】

現在、郊外に出ていた人たちが街に戻っていることを感じている。他にご意見はあるか。

【委員】

中心市街地の活性化を計る指標としては、中心市街地のGDPがどれだけ上がるかが重要であると考えられる。地域経済が活性化するためにはそこに住む人の数が増えなければ、底上げは難しい。地域外からの来街者を増やしていくという視点も必要だが、住民を増やすというのも重要な視点である。外国人観光客の見込数は、日本からの距離とその国の人口、GDPの上昇率の3つの視点による研究により、ある程度分かるようになっている。大丸のカード会員の利用実績における人口に対する利用率は、高知市全体に比べて大丸に近い中心地では利用率が10ポイント程度高まる。距離が近ければ近いほどリピートし、経済的にも効果がある。高知県外からの日本人観光客も評価できるようなものも必要になると考える。

【委員】

2025年には大阪・関西万博が終わり、海外からのインバウンド争奪戦が始まる。高知市もケアできるようにしたい。観光客入込数や宿泊者数は、国内と国外で別々に出していきたい。また、県内の飲食やサービス業の売上高などが増えているのかを知りたい。中心市街地のサイン表示を3か国語以上にするなど進めていかなければならない。

【委員長】

数字を根拠にすれば進めやすいと思う。目標については案で示された目標1・目標2の2つでよろしいか。

【副委員長】

目標1の「働く」に関して県が企業誘致を進めており、中心市街地に県外企業の進出も増えてきている。その紹介が参考資料などにあると説得力が増し、分かりやすいと考える。

【委員】

目標1の指標はほぼすべて増加しており、中心市街地の人口や社会増などは今後落ち込むことはないと思う。プラスに向かうもの以外の指標が必要なのではないか。就業者に関しても商業ベースではなく商業以外の産業も網羅すべき。指標は達成が難しいものでもそこに向けてどう取り組むかを考えるべきである。全体的に見ると多様性が見えてこないように感じる。目標やコンセプトに多様性という部分を盛り込むべきだと考える。必ずしも中心市街地のみが良ければいいというわけではない。

【委員長】

中心市街地がよくなれば高知県全体がよくなるという趣旨を盛り込めばいいということか。

【委員】

他の地域を置き去りにして中心市街地を良くするというわけではないというメッセージを入れるとよい。

【委員】

中心市街地において日常的に訪れる機会が増えると、消費も増える。暮らす人が増え、歩くことができるまちであれば、健康増進にもつながる。

【委員長】

他に意見はあるか。

意見を聞き、目標 1, 2 でよろしいと思う。目標 1 に新しく指標を入れることを事務局にお願いしたい。次に第三期計画のコンセプトについてお聞きしたい。

<事務局>

このコンセプトの中から絞っていただいた意見から事務局のほうで検討していく。次回の委員会で事務局が絞った候補の案と目標を示していく。

(3) 登載事業の検討について

○大西委員から商店街関係者を対象にしたアンケート（一期及び二期の中活への評価、新たな中活（三期）で取り組んでほしい内容）について説明

○主な質疑等

【委員】

9 番の景観形成事業と 10 番シンボルツリー植栽事業が三期計画へ登載しないとなっているが、おびさんロードにある街並みや追手筋のフェニックス並木の景観など今あるものを活かせるるとよいと考える。ライトアップにより、夜の散歩やウィンドウショッピングができる。ナイトタイムアクティビティとして、夜の賑わいづくりが進められるとよいと考えるため、掲載を復活してほしい。

【副委員長】

大西委員がまとめていただいた商店街の意見の中に、「個人旅行で選択されるような仕掛けを」という意見があるが、言い換えると、高知市の景観としての観光政策をどうするかといえる。高知市は景観としての魅力がある場所があまりないと考え、磨き上げをする必要がある。他の街にないような景観を持っている形にならないと、観光政策にはならない。13 番事業の藤並公園とあるが、観光客にとって憩いの場になるのか、他の場所でもいいのではないかと考える。観光の総合戦略を考えてから、細かいところを決めていくべきであると考え。アクティビティは高知市外で行われており、インバウンドを含めた観光戦略は高知市が一番できていない状況と考える。

<事務局>

景観については、今から看板の制限などを行い、街並み・景観を統一していくのは厳しいと考える。コンパクトな街と自然の近接度が高知の良さだとも考える。高知市、高知市外の連携をとり、良いところを押していくべきであると考え。観光戦略としては、れんけいこうち広域都市圏の枠組みを活用し、全体として、活性化をしていくようにしていきたい。

【委員長】

「あるものを活かす」という意味では、フェニックスの並木は素晴らしいが活かさきれていない、ナイトタイムアクティビティに活用できる等の意見もいただいている。他にない景観であるためぜひ進めていただきたい。他にご意見はあるか。

【委員】

登載事業全体に関して、新規事業の追加予定はどのようになっているか。項目別に分類されているが、優先順位や予算規模別が見えづらい。また、どういった時系列で進めていくのか。

<事務局>

資料2は第二期計画に登載の60事業について記載している。新規の事業については調整中であり、第4回の委員会で提出する。優先順位は第4回の委員会で目標に対する指標と目標値を示し、その目標値に対応するメインの事業も示す。予算規模は市の事業だけでなく、県、民間の事業もあるのですべての事業について予算を示すことはできないかもしれない。そこについては検討を進める。

【委員】

登載する事業を社会性、公益性、事業性及び収益性など様々な軸で分け、どのようになったかを数字で表し、バランス良く事業を展開するほうがいいと思う。

【委員長】

オブザーバーの方からご意見はあるか。

【オブザーバー】

ひろめ市場はゴールデンウィークで3年ぶりに行列ができ、混雑した。混雑時の駐車場対策について委員の方の意見を参考にして検討していただきたい。

3 その他

次回の検討委員会について8月頃を予定している。

4 閉会

以上